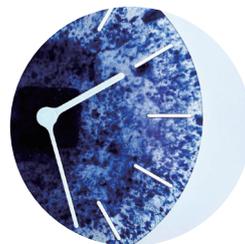


KDU i

Kobe Design University information

2026・3 | No.101

Vol.37-2



CONTENTS

02 〈特集〉おめでとう — この春卒業する学生の声 学生生活を振り返って

06 〈特集〉神戸芸工大生のいま

08 〈特集〉神戸芸工大生の未来 — 内定者インタビュー

10 2025年度 芸工祭「千花繚乱」

11 防災・防犯研修会／留学生交流会
教育後援会からの 寄贈品 が設置されました
教育後援会 奨学金について（給付奨学金）

12 行事予定／事務局からのお知らせ

この春卒業する学生の声 学生生活を振り返って

晴れてこの春、芸工大から羽ばたいていく学生たちに、卒業目の思いを語っていただきました。

Message



卒業を迎える皆さん、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

皆さんは、入学するまでは知らなかった多くのことを知り、入学するまではできなかった多くのことを身につけ、自身の可能性を格段に広げ、そして巣立っていきます。このことに胸を張り、神戸芸術工科大学の卒業生として堂々と生きていって下さい。そのように生きていけば、自分と社会とを結び付ける上でとても大切な人たちとより多く出会うことができるものと確信しています。

卒業後の皆さんの人生が素晴らしいものになることを大いに期待しています。

学長 松村 秀一

楽しさを力に、乗り越えた経験で大きく成長

城代 虎太郎さん 環境デザイン学科 リノベーションコース

住宅設計や広場などのランドスケープの設計、公共空間の設計など4年間を通して多くの分野に取り組んできました。3年次後期にコースの選択があり、リノベーションについて設計、用語、手法など専門的に学び始めました。選ばれた作品が実際に建築物になるという緊張感のある課題に取り組む、大きな学びになりました。設計課題は、1~2か月という短期間でやりたいことを決め、調べ、形にすることが求められる過酷な日々で、自分でもよく乗り越えられたなと思います。大変でも、自分の作りたいものを形にするという楽しさが力になりました。また振り返ると全て良い経験として、自分の中に蓄積されています。

また大学生活では部活動と就職活動に力を注ぎました。部活動はダンス部に所属し、部長も務めました。関西1位を決める大会(Z-1)では総合優勝2回、課題曲部門では3連覇することができました。この経験は自信となり就職活動においても活かされ、大手企業に採用していただけることになりました。

卒業後はリフォームエンジニアとして建築業界に進みます。リノベーションやリフォームの仕事に携わりたいという夢が叶いました。あまり先のことは考えすぎず、自分のやりたいという気持ちに素直に進んでいきたいです。やれるだけのことをやっただけの後悔のない人生を歩めたらと思います。

4年間大学に通わせてくれた家族には大変感謝しています。自慢の息子でいられるようにこれからも努力を重ねていきます。時にぶつかったり、楽しんだり、さまざまな経験をさせてもらえました。多くの忘れることのない思い出を糧に、これからの人生を楽しみながら頑張りたいと思います。



私のリフレッシュ方法

好きをアーティストのライブに行くことです。音楽の力は偉大なので、歌を聴いたり、歌ったりするのとてもよいリフレッシュになります。

夢中になれることを見つけ、大切に育てた4年間

西本 彩乃さん プロダクト・インテリアデザイン学科 プロダクト・カーデザインコース

ただ「なんとなく好き」から始まったプロダクトデザインが、学びを通して少しずつ鮮明になっていった4年間でした。1年次にはデザインの基礎を幅広く学び、2年次では約1年にわたって制作した家具をミラノデザインウィークで出展し、「何かに夢中になる経験の大切さ」を感じました。3年次から地域とデザイン、モノとコトづくりの関係に関心が広がり、卒業研究は、プロダクトデザインを取り入れた神戸電鉄粟生線の活性化をテーマとしています。

2年次に履修した「デザインの現場を語る」という現役デザイナーの方が担当する講義は大変印象に残り、学外活動へつながるきっかけになりました。その後学外で積極的に活動することに力を入れ、尊敬できる人に会うことや、未熟さを痛感する環境に身を置くことで大きく成長できたと感じています。

卒業後はベネッセアートサイト・福武財団の職員として働きます。「そのときそのときでできる限り頑張る」ことを信条とし、地域とアートに関係をつくる仕事に向き合っていきたいです。

芸工大は幅広い分野に触れ、自分の選択を肯定してくれる環境でした。後輩の皆さん、ここには自分の興味をじっくり育てられる場所があります。

ぜひ自信をもって飛び込んでみてください。



私のリフレッシュ方法

忙しい日常から少し離れ、ゆっくり過ごしながらか好きなことをしてリフレッシュしています。



西本さん(右)

チャレンジ精神で掴んだクリエイティブを融合させる楽しさ

藤島 海さん ビジュアルデザイン学科 Web・モーショングラフィックスコース

映像を用いた「動き」のデザインを中心に、写真、グラフィックデザイン、企画デザイン等を幅広く学んできました。プロジェクトにも積極的に参加し、3年次に専攻の異なる友人と取り組んだコラボレーション作品が、外部のコンペティションでグランプリを受賞しました。クリエイティブの融合で1人ではできない豊かな表現の可能性があることがわかりました。その後三宮センター街の「サンエフストリート完成記念展示」にも参加し、学年、学科を超えたグループワークで作品を創り上げました。このような経験から感じた「誰かと何かを成し遂げる楽しさ」は大きな学びと成長につながりました。

学生時代は、少しでも面白そうと感じたことに積極的に挑戦してきました。多様な経験を重ねたことで、ツールに縛られない発想や、人とのコミュニケーションを大切にデザインする姿勢が身についたと感じています。

私はクリエイティブを通じて言語の先にある共感を生み出すことを生涯目標としています。手法にとらわれず、新しい技術を取り入れながら、多様な視点と表現力で、変化し続ける世の中を柔軟にとらえ、自身の表現が人の心に少しでも影響を与えられる人間になりたいです。

人生においてかけがえのない経験を得た大学生活。支えてくれた家族をはじめ、共に歩んでくださった皆さんに本当に感謝しています。自分の選んできた答えを後悔のないものにできた学生時代だったと確信しています。これからも私にしかできない表現の可能性を探究していきます。



私のリフレッシュ方法

穴場スポットを探す旅行です。紹介サイトに載っていない場所を自分で探すと、土地の歴史や伝承を知ることにもつながって旅の密度がぐっと高まります。



害虫展season5 入選作品「蟲の舞踏会」



ホログラムVFX

戦友たちと培った諦めない精神を胸に

青木 北斗さん 映像表現学科 デジタルクリエーションコース

専攻したコースでは主に3DCGについて学んできました。CG以外のデジタルを用いた制作も行い、さまざまなコンテンツに触れることで「デジタルな世界は画面の外にも広がる」という多角的な学びを得ました。

4年間の中で最も印象に残っているのは、1年次に履修したCGの基礎授業です。当時の私にとっては専門性の高さを痛感するような厳しい内容でしたが、「次は必ず乗り越える」と、同じ試練に直面していた友人たちみんな情報交換をし、夜通し制作に打ち込みました。この経験が、学生時代を共に過ごす「戦友」のような強固な絆を生むきっかけになったと感じています。

学生生活においては、学生フォーラム執行部役員としての活動にすべてを捧げたと言っても過言ではありません。中でも2年次では大学祭代表を務めましたが、コロナ禍での規制緩和に伴い、安全管理と企画運営への対応に追われる日々でした。困難を乗り越えられたのは、執行部のメンバー、そして教職員の方々の献身的なサポートがあったからです。会長職を務めた際にも多大なご支援をいただき感謝しています。

卒業後は学んだ分野とは異なる道に進みますが、新しいステージで、常に前向きな姿勢と周囲へのポジティブな影響力を持つことで「人から目標にされる人間」になることを目指します。

また、私は卒業制作のテーマにもしているキャンプが趣味なのですが、愛車と共に全国47都道府県の絶景キャンプ地を制覇することが人生の夢です。仕事では全力を尽くし、プライベートでは自然から活力を得る、理想的なバランスの中で、公私ともに充実した豊かな人生を送りたいと思います。大学での学びと、周囲の支えによって培われた「諦めない精神」を胸に、仕事でも夢でも目標を達成していきます。



私のリフレッシュ方法

筋トレとソロキャンプです。多くの人と関わる機会が多いので一人になれる時間を確保できることが息抜きになり趣味になりました。

学び、吸収し、描き続けることで培った力

星野 晴夏さん まんが表現学科 コミックイラストレーションコース

イラストレーションの授業で構図と演出を学んだことが最も印象に残っています。お題に沿った作品を制作して添削と講評を受け、絵だけでシチュエーションを伝えるためには創意工夫が必要だと考えるようになりました。キャラクターの大きさ、目線の動き、表情、色調、光の当たり方、背景、小物の配置といった多くの構成要素を考えて絵を描くようになりました。

4年間、課題と自主制作を続ける中で、情報を伝えること、締切を守ることの大切さを痛感しました。前者は人物が抱えている感情、シチュエーションを読み手に伝えることです。常にそこに意識を持って適切な構図を考え、セリフやシナリオを推敲しました。後者は、描くこと自体早くなるよう練習を重ね、手帳でスケジュールを管理徹底するよう心がけています。

卒業後はフルカラーコミックの制作に関わります。イラストにおける演出という、大学で学んできたことを発揮したいと考えています。また、自主制作のイラストでも技術の向上を目指し続けます。

イラストは一人で描きますが、常に誰かの存在があって作品が生まれました。これまで支えてくださった家族、先生、友人に深く感謝します。



私のリフレッシュ方法

映像作品の視聴です。宝塚歌劇は劇場にも足を運びます。美しいものを全身で浴びることで、嫌でも絵を描きたくなるようになります。

卒業制作のメインビジュアル(左)と学科ポスター(右)

発想をカタチにする喜びを力に変えて

柘田 佳那さん ファッションデザイン学科 ファッションデザインコース

4年間で「自分の発想をカタチにする」ことを学びました。授業ではテーマやコンセプトを言語化し、作品として表現するプロセスを何度も経験しました。最初は思い描いたイメージを形にできず悩むこともありましたが、先生方の指導や、友達との意見交換で切磋琢磨しながら製作することで、自分の表現と向き合う力が身に付きました。初めて自分の作品がカタチになったときの達成感は今でも覚えています。

授業やアルバイト、サークルなどの両立は大変でしたが、製作には手をぬかず隙間時間を見つけてスタジオに通い、家でもコツコツ作業を続け、常によりクオリティの高い作品ができるよう心がけました。大阪万博で開催されたファッションショーに参加したり、芸工祭で自身で制作した小物の販売をしたり、挑戦したことは刺激になり、成長につながりました。その集大成として卒業制作では、衣服における「縫う」という行為と自然、生命の「循環」に着想を得た10体の衣服設計をするともに、ポートフォリオに掲載する写真の撮影まですべて自分で行いました。

卒業後は、学生服を作る会社に就職します。自分が製作に携わった学校の制服を着た生徒を街中で見ることが今の目標です。着る人のニーズや気持ちに寄り添った制服づくりのため努力し続けます。作品制作、学校外での活動も充実させることができたのは支えてくれた家族のおかげです。丁寧に指導してくれた先生方、思い出を共にした仲間にも深く感謝しています。



EXPO KYOTO MEETING KIMONO UPCYCLE RUNWAY

まよ「纏いの余白」
着物を長く着続ける技術「おはしより」をギャザーで表現。3着の着物をすべてほどこき1枚の生地にし、ドレスを制作。

私のリフレッシュ方法

製作とリフレッシュ時間のメリハリを心がけています。仲間と過ごす時間も、一人でアニメ・ドラマを観るのも思いつき楽しめます。



テーマを探求し、積極的に発表することで成長を実感

出井 梨里奈さん アート・クラフト学科 ガラス・陶芸コース

ガラスという素材を通して「内面のかたち」を探る制作に取り組んできました。特に印象に残っている学びは、1年次のガラス・金属・陶芸など複数の素材に触れる基礎造形の授業です。それらの素材を同じ工房内で体験できる環境下だったので、いつも近くでそれぞれの質感や特性、制作の流れを感じながら理解することができ、「異素材の関係性」の探究につながるきっかけとなりました。

学生生活において、学外公募展への挑戦と、芸工祭を中心とした展示活動にも力を入れて取り組みました。学外では「兵庫工芸展」や、GALLERY北野坂のガラス企画展「Glass Works」に出品し、学外の鑑賞者や作家の方々から直接作品を見ていただく機会を積極的に作りました。自身の表現への理解がより深まったと感じています。

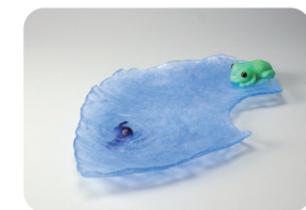
卒業後は本学大学院へ進学し、ガラスと金属を中心とした素材研究をさらに深めていきます。異素材の特性や関係性をより専門的に学び、新しい造形表現の可能性を探ることで、自分らしい作品世界を確立したいと考えています。また、人と関わりながら作品を届ける活動にも力を入れていきたいです。

恵まれた環境で学べたことを誇りに思い、支えてくださった全ての方への感謝を胸にこれからも制作を続けていきます。



私のリフレッシュ方法

海を見に行くことと、カフェ巡りです。日常から離れた落ち着ける場所に身を置くことで思考が整理されて、制作への意欲が自然と湧いてきます。



兵庫工芸展 入選作品
「親愛 shinal」



硝陶綺譚展 出展作品
「変化 henge」



赤松 優衣さん
建築・環境デザイン学科 1年

休日の過ごし方

映像編集や撮影の練習をすることが多いです。MVや空撮映像をよく観て、自分の作品に取り入れられる表現を研究しています。新しいエフェクトや編集方法を試したりしながら、楽しみつつ技術を磨いています。

建築を取り巻く幅広い分野に積極的に挑戦中

建築士の資格と教員免許の両方が取れることや、建築以外の専門分野の授業も受講できること、少人数制のゼミなどに魅力を感じ芸工大を選びました。

講義を受けてみて、制作にかかる時間と労力の多さに驚きました。学校に残って遅くまで作業をするのは大変ですが、友人たちとアイデアを出し合い進めていく時間は充実しています。自分にはない視点や発想に触れ、刺激を受けています。

さまざまな授業のなかで「映像技術入門」は印象的でした。建築とは違う視点で、空間の伝え方や見せ方を知り、建築と映

像の組み合わせの可能性も感じました。先生が自らの体を使って実演してくれるなど、授業そのものもとても面白かったです。

建築の分野以外にも意識して積極的に取り組んでいて、今はドローン操縦資格の取得を目指しています。将来的に建築分野と映像分野の両方を活かして、幅広い仕事に挑戦したいと思っています。

次年度は今よりハードな制作課題が待っていると思います。しっかり向き合って丁寧に作品を作っていきたいです。また地元の古民家改修事業に関わり、実際の建物や地域の課題に触れようと考えています。建築・映像・空撮のスキルを組み合わせ、地域に貢献できる活動に参加することも目標です。



「本を読む小屋」



「集まれる家」



ATHALIA EILEEN LEVANA BUDISUTIONOさん
メディア芸術学科 まんが・コミックイラストコース 2年

休日の過ごし方

主に課題に費やしています。課題を終えた後は作品を鑑賞する側になりますが、好きなアスタイルを見つけると模写して絵の練習をしています。

夢だったまんがを学ぶ楽しさを実感する日々

子どもの頃からの夢だったまんがを学ぶことができるこの大学を選びました。在学中の先輩方から、先生方がみんな優しく指導してくださっていること、留学生に対しても温かく迎え入れてくださるということも事前に伺い、安心して入学することができました。

毎日好きなことを勉強できる今は非常に充実しています。授業や課題で忙しいときもありますが、それを通じてひとつずつ自分の成長を実感できるため、大変でもそれを乗り越えられる楽しさを感じています。

一番印象に残っている授業は、必須科目の「まんが・イラスト

制作演習」です。先生方は学生それぞれに合った具体的なアドバイスをごくため、独学では習得できない多くのスキルや知識を身につけることができました。

現在、今期の最終課題としてホラーまんがを制作しています。学んだことを応用しさらに力をつけたいと気合いを入れて、これまで挑戦したことのないジャンルに挑戦することにしました。さまざまなホラーまんがを読み、私のストーリーに合った怖さを演出する表現方法を模索しながら、着実に作業を進めています。

来年は授業以外でもさまざまな表現を練習する時間を増やせたらと思います。まんが以外のスタイルも研究し、幅を広げ作品に活かしてみたいと考えています。



本文中で紹介しているまんが表紙「天罰」



「聖騎士」



喜代永 崇真さん
ビジュアルデザイン学科 グラフィックデザインコース 3年

休日の過ごし方

ボードゲーム、カメラ撮影をすることが多いです。お酒も好きで、自宅シェイカーを使ったカクテルをつかったり、美味しいお酒探したりに明けたりもします。

学業もサークル活動も、自分が納得できるように向き合う

3年間を振り返って最も良かったと感じているのは、さまざまな価値観や技術を持つ人々と出会い、刺激を受けながら学びを深められたことです。同じ学科の学生は興味や得意分野の幅が広く、情報交換を通して自分にはない発想や手法を知ることができました。課題への向き合い方も豊かになったと感じています。また私はボードゲームを作るサークル活動にも力を入れてきました。活動を通じて他分野を学ぶ学生と関わることで、考え方の幅が広がり、学びに柔軟性が育まれました。さらに多様な専門分野の先生方が身近にいる恵まれた環境を活かすため、主体的に

行動し、直接助言をいただきながら多くの学びを得ました。

学生生活では、学業とサークル活動を完璧にこなすことは簡単ではないからこそ、自分が「何をやりたいのか」を明確にし、優先順位を意識して行動することを大切にしています。その結果、どちらにも納得のいく形で向き合うことができていると思います。

2年次の広告・企画デザインの授業で、食品の卸売会社・株式会社泉平様の課題に取り組む機会がありました。事業内容をより多くの人に効果的に伝える方法を検討する中で、私は「楽しみながら理解できる仕組み」が重要と考え、ボードゲームを用いた企画を提案しました。グループワークで改良を重ねたこの提案は、最終的に正式採用されるという成果へつながりました。

自分たちが考えた企画が形となり、実社会で活用されるまでを経験したことは、他に代えがたい私の大学生活の大きな財産となりました。この経験で培った「課題を発見し、デザインで解決策を形にする力」を社会人として活かせるよう、さらに努力していこうと思います。

加治 あやかさん

まんが表現学科 コミックイラストレーションコース 4年

休日の過ごし方

ゲームをすることや好きなキャラクターの漫画、イラストを描くことです。

子どもの頃からの夢に近づいていることを実感

これまでの大学生活で最も印象に残っていることは、3年生後期に開催したコース展です。作品制作に加え、自分たちで空間をデザインして展示するのは初めてでした。設営が完了した会場を目にしたときはなんとも言えない高揚感がありました。来場者の方から作品へのメッセージをいただき、大きな手応えを感じました。

私は入学前から、漫画やイラストを学びながら教員免許を取得することを目標としており、大学生活では教職課程の履修にも力を入れて取り組みました。テストや実習などが専門分野の課題と被って大変だった時期も、時間配分などを意識してやり遂げることを大切にしてきました。



卒業制作「光輝の君」



「KEEP OUT」

就活では、幼少期からの夢である「絵に関する仕事に就くこと」を軸にしました。これまで最も時間も努力を注いできた絵の世界を広くとらえて、仕事にしたいと考え活動しました。現在、イラスト・マンガ教室にて、専門分野の勉強と教職課程の学びを活かして講師として働いています。卒業後もこの仕事を続けながら、漫画やイラストの制作を続けていくことが今後の目標です。将来的には漫画制作も仕事にできるよう幅を広げていきたいです。

周囲の人に支えられ、芸工大でのたくさんの学びを得たことで、幼少期からの夢に大きく近づけたと感じている日々です。



01 内定者インタビュー 憧れを原点に、 地元・兵庫の安全を守る仕事へ

兵庫県警察本部
警察事務職

アート・クラフト学科
ジュエリー・メタルワークコース

池田 衣莉珠 さん

就活データ

志望業界：公務員・ジュエリー
インターンシップ参加：1社
説明会参加：約10社
活動費用：約32万円(制作費0.3万円、交通費2万円、洋服代0.5万円、写真撮影費0.2万円、その他約0.2万円)

子どもの頃からの憧れを原点に、 警察事務職を選んだ

私は幼い頃から警察官に憧れを持っていました。近所の交番の警察官はいつも子どもたちに優しく接してくれましたし、「地域の人を支える存在」としてかっこいい仕事だと思ったからです。

警察官になる夢を持ちましたが、中学生の時の部活動での負傷で、諦めざるをえませんでした。就職活動を始めた当初は、芸工大での学びを活かしたいと、ジュエリー業界を中心に考えていましたが、思うように進まず悩みました。地元で働くことを希望していたので、選択肢も限られていました。すると両親が、私に合いそうな仕事を探してくれるようになり、その中の一つが警察事務職でした。一旦職種を広げて検討し、改めて自分が本当にやりたいことを考え直した結果、「この仕事ならあこがれの警察に関わることができる」と思い、エントリーすることにしました。

芸工大でのものづくりの経験を、 仕事のアイデアに変える

警察事務職の選考で最も悩んだのは、エントリーシートにあった「大学で学んだこと

をこの職にどう活かしますか」という質問でした。私はアート・クラフト学科でジュエリー制作を学んできたため、その経験や知識は警察事務職に直接結びつきません。そこで、ものづくりの経験を活かして子ども向けのワークショップを開催し、その時に交通安全や防犯意識を伝える取り組みを提案しました。芸工大生ならではの発想として印象に残ったようです。

就職活動中はキャリアセンターに何度も通い、分からないことは何でも相談し、迷ったときには話を聞いてもらいました。就職活動への大きな支えになりました。

就職後は警察事務職として、誰に対しても公平で誠実に向き合える存在になることが目標です。芸工大で培った感性や、人と関わる中で得たコミュニケーション力を活かし、地域の安全に貢献します。



工房で卒業制作作品のパーツを加工中

在学中にチャレンジしてきたこと!

学祭での作品展示や複数のサークル活動に参加。役職も経験し、責任感とコミュニケーション力を磨きました。



後輩たちと芸工祭でパフォーマンスをし、交流を深めた



3年学年末展示「egg展」にて、雨(水)と植物をモチーフにした作品

夢を形にした2人に成功への道のりについて聞いてみました!



02 内定者インタビュー 学びと創作活動の 延長線上にある印刷の仕事

株式会社グラフィック
総合職(技術総合)

まんが表現学科
ストーリーまんがコース

越智 花菜 さん

就活データ

志望業界：印刷
インターンシップ参加：2社
説明会参加：10~15社
活動費用：約10万円(交通費2万円、洋服代5万円、外食費1.7万円、写真撮影費0.8万円、その他約0.5万円)

印刷の仕事を通じて、 多くの人々の創作活動に関わりたい

私はストーリーまんがコースで学び、卒業後は印刷会社に就職する道を選びました。もともとは創作活動を続けられる進路も考えていましたが、先生に進路相談をする中で「一度社会に出て、さまざまな経験を積むことが、創作に必ず活きる」という言葉に背中を押されました。

在学中に同人誌を制作する機会があり、その過程で印刷という仕事に接し、興味を持つようになりました。印刷会社は、作品やイラストを冊子やグッズなどの形にしてくれます。働くならば、そういう仕事をしたいと思いました。就職後の配属先としてオンデマンド印刷の部署を希望しています。少数の冊子やチラシから、アクリルスタンドやシールなど、小ロットの多様な要望に寄り添い、お客様の創作活動に携われることを、今から楽しみにしています。

仲間と展示会に出展した経験が、 私の強みになった

大学生活で特に印象に残っているのは、コース展や芸工祭に仲間とともに出展する時

の代表を務め、展示作品や冊子制作のスケジュール管理を担当したことです。締切を守ってもらうことの難しさや、印刷機が故障したときの対応などを経験しました。また、先生からの紹介で芦屋市水道局のキャラクターを制作する機会に恵まれ、学びを実社会に活かすことができました。

就職活動では、早めの時期から取り組んだことで選択肢を広げることができ、キャリアセンターでの面接練習も大きな支えになりました。作品制作と就職活動の両立は大変でしたが、同じ授業を受けている友人と助け合いながら乗り越えた経験は、社会に出てからも必ず活きると思っています。

就職してからは印刷の知識と技術を磨きつつ、個人的に創作活動も続けていきます。印刷と創作の両方に関わりながら、自分らしいキャリアを築いていきたいです。



ともに頑張っている仲間がいることが何よりの励みに

在学中にチャレンジしてきたこと!

卒業研究のテーマは「キャラクターの立て方」。あえて苦手のテーマを選び、論理的に考えて理解を深めました。



芦屋市の下水道PRキャラクター制作では、既存2体に仲間入りする、新たなキャラクター「ほたるちゃん」を担当



キャラクターが登場するPRまんが、LINEスタンプなどの制作も行なった

キャリアセンター について

キャリアセンターでは、学生の皆さんにさまざまな情報提供や支援を行っています。

就職・進路相談/就活支援(書類添削・面接練習など)/求人紹介/就職対策講座の実施/企業説明会の開催/資格取得&スキルアップ講座/ポートフォリオ閲覧/キャリア関連書籍閲覧・貸出 etc.

進路・就職実績を本学ホームページに掲載しています。

<https://www.kobe-du.ac.jp/support/career/>



キャリアセンターから 保護者の皆さまへ



進路選択や就職活動において、学生が抱える「焦り」や「不安」はさまざまです。日々近くで見守っておられる保護者の皆さまも、どのように関わり、支えていけば良いのか悩まれることがあるのではないのでしょうか。

キャリアセンターでは、学生はもちろん、保護者の皆さまからのご相談も随時受け付けております。進路や就職に関する疑問、ご心配な点などがありましたら、お気軽にご連絡ください。皆さまとともに、より良いキャリア形成をサポートしてまいります。

数えきれない個性が花開く

2025年度 芸工祭「千花繚乱」

2025年10月18日(土)・19日(日)2日間にわたって開催!

代表者よりメッセージ

学生フォーラム執行部 大学祭代表

原本 優歩さん (生産・工芸デザイン学科 2年)

まずはご協力いただいた全ての皆さまのおかげで今年度の芸工祭を無事終えることができましたこと、厚くお礼申し上げます。

今回のテーマは「千花繚乱」。才能にあふれた人物などが同時に現れるという意味の「百花繚乱」から着想を得て、芸工祭という場で素敵な作品が百にも千にもあふれてほしいという願いを込めました。

昨年度フォーラム役員として芸工祭を経験し、好奇心から代表に立候補しました。それまでいろいろな場面で、やればよかったという後悔をしていたので、思い切って挑戦してみよう! という気持ちもありました。ところが代表になって最初の企画説明会で、自分の伝えたいことが100%伝えられないというもどかしさを感じ、代表としての責任を痛感しました。

本番でも想定外の出来事は多々あったと思うのですが、とてもうまくいったと思っています。今年初の試みを実施するために、マニュアルを作成するなどの対策をしてきました。来場者や学生の皆さんにもそのルールを守っていただけてスムーズに行うことができました。一緒に盛り上げてくれた学生の皆さん、そしてフォーラム役員の皆さんの努力が成功に導いてくれました。僕自身も楽しむ側としても参加できて、最高の芸工祭でした。



防災・防犯研修会 / 留学生交流会

11月8日(土)、本学にて留学生を中心に日本人学生(主に留学生チューター)も参加する「防災・防犯研修会 / 留学生交流会」を開催しました。

午前の部では、兵庫県神戸西警察署および神戸市消防局の方々をお招きし、日本の交通ルールや日常生活で遭遇し得る犯罪の具体的な事例についてご講話いただきました。また、津波や火災を想定したVR体験を通じて、災害時の行動を再確認する貴重な機会となりました。

午後の部では、和菓子(練り切り)講師と茶道講師を迎え、日本文化に触れる体験を実施しました。講師の指導のもと和菓子作りに挑戦し、抹茶は参加者同士でたて合いながら味わい、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。

防災・防犯知識と日本文化の双方から学びが広がる、有意義な一日となりました。



※開催経費の一部を教育後援会に援助していただきました。

教育後援会からの寄贈品が設置されました

2024年度の教育後援会費による寄贈品として、食堂にドリンクサーバー(6台)、情報図書館にプロジェクタ・スクリーンが新たに設置されました。

これらの設備は、学生たちの日常生活や学習環境をより快適で充実したものにするを目的として寄贈されたものです。

学生生活の質向上に向け、日頃より温かいご支援を賜っております教育後援会の皆さまに、心より感謝申し上げます。

また、その他の支援の詳細につきましては、6月に保護者の皆さまへ送付しました事業報告書にてご確認いただけます。

今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



教育後援会 奨学金について(給付奨学金)

教育後援会では、優秀な資質を有しながら、経済的理由により修学が困難な学生に対し、学資を給付することで学業を継続できるよう支援助し、社会に有用な人材を輩出することを目的とした奨学金制度を設けています。募集内容の詳細については、学生用ポータルサイトにてお知らせいたしますので、お子さまへぜひお伝えください。

- 応募資格
 - 教育後援会費を納入し、半期以上在学している学生
 - ※1年生および編・転入生は10月の募集から対象となります。
- 募集期間
 - 5月と10月
- 給付額
 - 年間120,000円(前期・後期に60,000円ずつ給付)
- 選考基準
 - 成績・経済状況・人物を総合的に審査し、書類選考および面接により決定します。

行事予定 2026.3.21～2026.9.24

3月	
21土	卒業式
27金～30月	2026年度在学生オリエンテーション (新2年～新4年)
4月	
3金	入学式
4土	前期履修登録開始 健康診断(学部4年、修士1・2年、博士1・3年)
6月	健康診断(学部2・3年、博士2年)
2木～7火	新入生オリエンテーション
7火	前期学費延納・分納手続期限 学生フォーラム総会・クラブ紹介・新入生歓迎会
8水	前期授業開始日
9木・10金	交通安全講習会
14火	前期履修登録締切
27月	前期学費納入日
29水	通常授業日/昭和の日
5月	
27水	体育会系クラブ・サークル加入者心電図検査
7月	
20月	通常授業日/海の日
23木・24金	補講日
29水～31金	補講日
8月	
1土	補講日
3月・4火	前期末試験日
5水	夏期休業期間開始
6木	追試験受付締切
18火・19水	追試験日
9月	
1火	成績発表(4年)
3木	再試験受付締切
4金・5土	再試験日
10木	成績発表(1～3年) 後期オリエンテーション
11金	履修登録開始
17木	前期卒業式
18金	後期授業開始
21月	通常授業日/敬老の日
24木	後期履修登録締切

常任委員募集のご案内

教育後援会は、大学教育の発展と学生の充実したキャンパスライフをサポートすることを目的としております。福利厚生や課外活動の支援、修学や就職活動のサポートなどを通じて、学生の皆さんが充実した大学生活を送り、それぞれの目標を達成できるよう、大学と連携してさまざまな支援活動を行っております。

つきましては、常任委員としてご協力いただける方を募集しております。ご興味のある方は、右記のQRコードを読み取り、お申し込みください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



事務局からのお知らせ

●学費納入について

2026年度学費納入は下記の通りです。

前期 2026年4月27日(月)

後期 2026年10月27日(火)

経済的な理由などから、期日までの納入が難しい場合は、「延納制度」または「分割納入制度」を利用することができます。

●「延納制度」

納入期日を2ヶ月間延期することができる制度です。

●「分割納入制度」

各期の納入額を2回に分割して納入できる制度です。

●手続期間

前期 3月2日(月)～4月7日(火) 17:00まで

後期 9月1日(火)～10月7日(水) 17:00まで

●手続要領

1. 所定用紙を入手する。(前期分は3/2より配付)
2. 学生・保証人の署名・捺印・必要事項を記入する。
3. 期日までに学生生活・国際交流課に提出する。

●所定用紙の入手方法

- A. 学生生活・国際交流課窓口で受け取る。
- B. 大学ホームページからダウンロードする。

TOP>学生支援>学費>延納制度・分割納入制度



谷岡学園創立100周年の寄付金募集

本学の設置母体である谷岡学園は2028年に創立100周年を、また本学は2029年に開学40周年を迎えます。これらの節目の年を迎えるにあたり、老朽化した施設の整備や教育環境の充実、学修支援や学生生活支援の強化、さらには地域貢献にも、教職員一丸となって取り組んでまいります。

つきましては、大学運営の一層の安定を図るため、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



芸工大HP



趣意書

アンケートにご協力ください

より充実した誌面作りのために、保護者の皆さまからのご意見・ご感想をお聞かせください。なお、アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名の方に「クオカード(500円分)」を進呈いたします。ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

※右記 QR コードからご回答いただけます。



KDUi Vol.37-2 | 2026・3
No.101

+ + 神戸芸術工科大学
+ + KOBE DESIGN UNIVERSITY

編集・発行……………神戸芸術工科大学 学生生活・国際交流課

〒651-2196 神戸市西区学園西町8-1-1
TEL 078-794-5024 FAX 078-794-5027
HP▶<https://www.kobe-du.ac.jp/about/release/kdui/>
E-mail▶student-a@kobe-du.ac.jp